

- 労働センターの利用の特徴（利用時間・車の利用など）から現在の位置周辺現在の位置周辺が最も現実的な場所である
- 現在と将来を見据え、労働市場や雇用システムなど「社会変化」を受け止める計画にすべきである。（暫定的・段階的な利用方法も検討すべき）
- これからのまちづくりに向けて、駅前エリアの賑わい・地域活性化が必要（浪速区側も含め、多様な主体を巻き込んだ地域貢献型のまちづくりへ）
- 労働関係施設の計画の具体的な検討には、市だけでなく、こうした住民協議の場で府や国と一緒に考える場を設定すること
- 更新事業中の既存の労働市場の職業あっせん数や、あいりん総合センターを「居場所」としている人々の生活に支障が無いようにすること

■現状・全体意見（労働福祉センター／職安）

- 【現状】**
- 機能の明確化、労働福祉センターと寄り場機能（理解しにくい）
 - 周辺への影響
 - ・路上求人の管理、道路手配との関係
 - ・路上求人をやめさせて建物のなかで求人するようにするのか？
 - ・駅前イメージはどうか？
 - 利用者数や今後の予測・労働者数の推移
 - バブル時代以前の利用にあった機能・規模なので、現機能では利用者が減少傾向
 - 利用状況を考慮
 - ・センター周り 50～60 台、南霞を含めると 100 台の車
 - ・車、人の動きは朝 5 時から
 - ・朝は実際に人はそんなに動いていない
 - 労働者の減少
 - ・建設業界の人手不足
 - ・労働者（利用者）数は減少傾向
 - 住民の合意
 - ・あいりん総合センターができた当時は簡宿も多くあったので、労働者のまちとして地域住民も納得できた
 - ・地域住民の合意は難しい

【基本の考え方】

- 労働福祉センターの構成機能ごとに考える
- 労働福祉センターが教育に悪いとは思わない
- 暫定的・段階的な利用もできないか
- 多くの主体を巻き込んだものにしたい
- 労働政策を担う責任部局（国、府）も議論に参画すべき
- 地域との諸施策とどのように関係し位置づけてしていくか、野宿者問題はどうか
- センターの上部を移動している間に下部の話をするべき
- 居場所としての機能
 - ・地域住民、日雇労働者、野宿生活者、サポーターハウス入居者などの居場所としての機能の再確認
- 情報の提供・説明
 - ・移転と改修のメリット・デメリットを表示してほしい
 - ・耐用年数に関しての数値をだして欲しい。専門家の意見も
 - ・何年先までに出ないといけないのか知りたい
 - ・センターをどういう意図で建てられたのか説明してほしい
- 地域の声を聞く
 - ・「住民の総意」じゃないなら強制移転はだめ
 - ・労働者の意見を代表者が言えるのか、労働者の意見を聞くべき
 - ・立ち退きなんか望んでいない
 - ・利用している事業所の声も反映すべき
- 計画の担保
 - ・次のプランが実現する担保がない
 - ・5 年後建て替えが本当にできるのか
- スケジュール
 - ・労働センターは当分動かないのでは
 - ・職業安定所の解決に至るまで 10 年かかるのでは
 - ・現実味ある時間的計画が必要

■これからの機能（労働福祉センター／職安）

- 労働者の機能は必要（利用者が減る）
- 労働者を育てる（技能育成）
- 手配師を一掃できる寄り場に
- 自立支援機能
- まちづくりとして新しい機能を加えていくべき
- 朝だけの活用ではなく、多様な人が利用できるように
- 労働センター併設で野菜工場を作ってほしい。高齢者でもできる軽い仕事を中心に
- 若者・若い人の居場所づくり
- 若者の就労支援（若手と仕事のマッチング）
- 建物だけでなく仕事が集まる場
- 寄り場の維持（都市の発展には、寄り場は必要）
- 紹介業務の継続
- 職安は職業紹介を
- 労働者の居場所づくり
- 障がい者などの受入
- 防災拠点
- 規模を議論しないと機能について議論できない
- 雇用チャンスを与えられる技術講習などの施設

■必要な規模（労働福祉センター／職安）

- 適切な検討が必要
 - ・縮小前提の議論は疑問
 - ・利用状況から縮小してもよいのでは
 - ・スペースは縮小しない
- 新しい機能が入る適正規模、将来のニーズ変化への対応
- 駐車場の確保、地下駐車場
- 利用状況を考えて、機能・規模を考える（朝早い時間から利用、車が一時期に集まる）

- 駅前の地域活性化策については、あいりん総合センターだけではなく、駅を中心に幅広い検討が必要
- 地域活性化にあたっては、“排除”ではなく、“だれもが安心”して住むことができるまちづくりとする
- 駅周辺と街をつなぐ、地域特性に調和した計画にする

■現状・全体意見（駅前）

【現状】

- 新今宮西口を使う人はほとんどいない
- 西口の乗降者は海外の旅行者のみ
- 夜あいている店がない
- 利用者
 - ・天下茶屋で1日6.7万人の通行量
 - ・通勤がもっているポテンシャルを活かすべき
 - ・乗り継ぎは多いが、乗り降りは少ない
- 道路上の露店は迷惑。人気なのは違法なものばかり。露店もかつては人気があった

【基本の考え方】

- 他区との連携、浪速区の空き地も活用
- だれが開発をするのか。市か民間か
- 排除にならない活性化を
- 国の人もいないと話が進まない
- 遅い時間に帰る人への配慮（人通り少ないから）
- 安心して住めるまちづくり
- 鉄道会社との連携
 - ・JRと南海も巻き込まないと
 - ・南海とJRに資本を出してもらおう
 - ・南海、地下鉄を移動する人々にとってセンターはどう映ってるのか？ネガティブなイメージを与えてしまう
 - ・JRは広く開放すべき。西口だけではもったいなく、角地など更に有効活用すべき
 - ・“駅前活性化”といった場合、事業者はだれ？
- まちのポテンシャル
 - ・交通の要所をうまく使いたい
 - ・センターは、いい場所なのにもったいない
 - ・観光客を引き寄せられないか
 - ・「新しい人」のポテンシャルはあるのでは
 - ・今、外国人旅行者多い
 - ・駅を誰のために使うかも議論が必要
- 商業化への疑問
 - ・商業を入れるのは本当に必要か、まず外から人を寄せる必要があるのでは？
 - ・この人にとっては商業施設は今のままで十分ではない？
 - ・阿倍野が既にあるから大規模開発は無理
 - ・普通の商業、施設ではなく何かに特化するべき
 - ・文化的なもので人を呼べないか

■これからの機能（駅前）

- 駅前の賑わい機能
 - ・露店の場所を鉄道下に決めたら賑わうんじゃないか（違法ではないもの）
 - ・一坪店舗も一坪貸畑もいいのでは？
 - ・空き地は畑に
- センターの賑わい機能
 - ・1Fは駅前商店街として発展させたい
 - ・バザールとか面白いのでは
 - ・地域の特性を生かす商店（使われ方を考えることが重要）
 - ・屋台街エリアをつくっては
 - ・露店の場所もしっかり確保
- 回遊性、利用者増へ
 - ・商業的回遊路を確立する
 - ・もっと消費者を呼び込まなければ商業化
 - ・新しい商業施設は新しい人が来ないと成り立たない
- 若者が集まるまちに
 - ・若い人がLIVEしたりとかできる空間や広場など
 - ・裏難波の感じの場所（裏難波の延長）
- 銀行、郵便局が必要
- 商業施設だけではなく文化的なものを
 - ・文化教室、貸しオフィス、劇場
 - ・立地を活かしフィスを誘致したい